

## エヨ・エスパニーニャ（その2） 「身近な自然に学ぶ」



小川には水鳥が泳ぎ、野には野うさぎが駆け回る。こんなにものどかな風景が、マドリッドの中心からわずか20kmのところにはひろがっている。ここは「Parque regional del Sureste (南東州立公園)」と呼ばれる自然保護区。かつてこの周辺は国王の直轄領だった。現在、この公園には、環境教育センターが作られ、平日は学校の子ども向けに、週末は家族・一般向けに自然保護への理解を深めてもらうためのワークショップなどが開かれている。





「Parque regional del Sureste」の周辺には  
麦畑や工場地帯がひろがる



植物になって答えるロールプレイングゲーム



ときには野うさぎを見かけることも

この日、ここ「カセリオ・デ・エナーレス環境教育センター」を訪れていたのは、小学1～2年生の子どもたち。十数名のグループに分けられ、それぞれが全体の説明を受けた後、菜園でクイズに答えながら野菜にじかに触れたり、ときには食べたり、自然保護をテーマにした寸劇をやったり、都会ではなかなかできない土いじりをしたりして、自然の中でさまざまなことを学びながら数時間を過ごした。

参加料はすべて無料で、前もって予約を入れるだけ。週末には、有機農業教室やガイド付きの散策ツアーといったアクティビティも用意されており、毎年、のべ1万6千人ほどが活動に参加しているという。

すぐそばには、畑として格安（250㎡年間180ユーロ）で貸し出されている土地があり、都会に住む人たちが、楽しみながら野菜づくりにはげんでいる。

マドリッド州では、1998年から環境教育センターの設立が始まり、現在11あるセンターでは、住民の自然保護に対する意識を高める教育を行っている。

もちろんマドリッド州以外にも環境教育センターはたくさんある。早々と脱原発政策をとり、風車や太陽光などを利用した再生可能エネルギー大国といわれるスペインならではの試みである。

文・写真 篠田有史



篠田有史

しのだゆうじ/Yuji Shinoda

1954年岐阜県生まれ。フォトジャーナリスト。

24歳の時の1年間世界一周の旅で、アンダルシアの小さな町Lojaと出会い、以後、ほぼ毎年通う。その他、スペイン語圏を中心に、庶民の生活を撮り続けている。

【写真展】 スペインの小さな町で（富士フォトサロン）、遠い微笑・ニカラグア（//）など。

【本】 「ドン・キホーテの世界をゆく」（論創社）「コロンブスの夢」（新潮社）「リゴベルタの村」（講談社）などの写真を担当。